

研究課題	高性能蓄電デバイス創製に向けた革新的基盤研究		
中心研究者氏名	水野 哲孝		
中心研究者所属	国立大学法人 東京大学		
研究支援担当機関	国立大学法人 東京大学		
主担当議員	奥村 直樹	副担当議員	白石 隆

研究費配分額	担当議員案	調整会合案
	19,500 万円	19,500 万円

配分額の理由	
○	本研究課題は、最先端研究開発支援プログラムの当初計画から大幅に減額・縮小された研究開発の内容となっているところ、本プログラムの趣旨に鑑み、研究課題を加速・強化し、より有意義な成果を得ることが適切と判断し、本年度の加速・強化のための補助金より1.95億円を上限として、中心研究者に対して加速・強化案の提出を依頼することとした。
○	これに対して、以下の内容からなる研究課題の中で最も重要な原子・分子レベルでの合理的デバイス材料設計を重点強化し、特に前駆体の溶存状態の解析力を高めることによって、材料設計における重要因子の制御による試行錯誤効率を高めるとの計画が提出された。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 原子・分子レベルで制御された有機材料のビルディング分子の構造情報を明らかにするための精密質量解析装置、ナノスケールX線構造評価システムの導入による、材料設計コンセプト確立の促進
○	本プログラムの趣旨に照らして、その内容・費用共に適切であることから、本提案を推進することが適切と判断した。

研究課題	宇宙の起源と未来を解き明かす超広視野イメージングと分光によるダークマター・ダークエネルギーの正体の究明		
中心研究者氏名	村山 斉		
中心研究者所属	国立大学法人 東京大学		
研究支援担当機関	国立大学法人 東京大学		
主担当議員	相澤 益男	副担当議員	奥村 直樹

研究費配分額	担当議員案	調整会合案
	19,500 万円	19,500 万円

配分額の理由	
○	本研究課題は、最先端研究開発支援プログラムの当初計画から大幅に減額・縮小された研究開発の内容となっているところ、本プログラムの趣旨に鑑み、研究課題を加速・強化し、より有意義な成果を得ることが適切と判断し、本年度の加速・強化のための補助金より1.95億円を上限として、中心研究者に対して加速・強化案の提出を依頼することとした。
○	これに対し、以下の内容からなる近い将来の設置や機能強化のための取外し・再設置を高い信頼性で工程管理することを可能とする計画が提出された。 <ul style="list-style-type: none"> ① 多目的模擬鏡筒の製作と最終性能検査の評価作業 ② 多目的鏡筒を用いた国内工場でのHSC本体ユニットへの組込みや実装確認 ③ 多目的鏡筒を用いたすばる望遠鏡ドーム内での現地筒頂内環搭載作業の予行演習を行う
○	本プログラムの趣旨に照らして、その内容・費用共に適切であることから、本提案を推進することが適切と判断した。

研究課題	高次精神活動の分子基盤解明とその制御法の開発		
中心研究者氏名	柳沢 正史		
中心研究者所属	国立大学法人 筑波大学 / テキサス大学		
研究支援担当機関	国立大学法人 筑波大学		
主担当議員	本庶 佑	副担当議員	白石 隆

研究費配分額	担当議員案	調整会合案
	－ 万円	－ 万円

配分額の理由
<p>○ 本研究課題は、現在、最先端研究助成基金より配分されることとなっている 18 億円の研究開発費により、最先端研究開発支援プログラムの趣旨に合致した成果が得られる見込みであると考えられることから、今回は追加的な研究開発費の配分は見合わせる事が適当と判断した。</p>

研究課題	iPS 細胞再生医療応用プロジェクト		
中心研究者氏名	山中 伸弥		
中心研究者所属	国立大学法人 京都大学		
研究支援担当機関	国立大学法人 京都大学		
主担当議員	本庶 佑	副担当議員	白石 隆

研究費配分額	担当議員案	調整会合案
	118, 050 万円	118, 050 万円

配分額の理由	
○	本研究課題は、最先端研究開発支援プログラムの当初計画からiPS細胞技術の標準化推進等の研究が縮小された研究開発の内容となっているところ、本研究課題がより有意義な成果を着実に上げるために、縮小された研究内容を補完することを第一の目的として、11.95億円を上限として、中心研究者に対して加速・強化案の提出を依頼することとした。
○	これに対して、以下の内容からなるiPS細胞技術の標準化を加速・強化するための推進基盤を構築するとの計画が提出された。
①	多様なiPS細胞樹立技術の比較解析とiPS細胞及びその分化細胞の特性把握に必要な膨大な作業量を低減するための各種解析装置の導入
②	iPS細胞研究所の情報セキュリティ及び実験関連設備の強化
③	研究技術人材、研究支援人材の強化
○	縮小された研究内容を補完するためには、その内容・費用共に適切であることから、本提案を推進することが適切と判断した。

研究課題	量子情報処理プロジェクト		
中心研究者氏名	山本 喜久		
中心研究者所属	大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立情報学研究所		
研究支援担当機関	大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立情報学研究所		
主担当議員	相澤 益男	副担当議員	奥村 直樹

研究費配分額	担当議員案	調整会合案
	－ 万円	－ 万円

配分額の理由
<p>○ 本研究課題は、現在、最先端研究助成基金より配分されることとなっている32.5億円の研究開発費により、最先端研究開発支援プログラムの趣旨に合致した成果が得られる見込みであると考えられることから、今回は追加的な研究開発費の配分は見合わせる事が適当と判断した。</p>

研究課題	グリーン・ナノエレクトロニクスのコア技術開発		
中心研究者氏名	横山 直樹		
中心研究者所属	独立行政法人 産業技術総合研究所／株式会社 富士通研究所		
研究支援担当機関	独立行政法人 産業技術総合研究所		
主担当議員	奥村 直樹	副担当議員	白石 隆

研究費配分額	担当議員案	調整会合案
	19,500 万円	19,500 万円

配分額の理由	
○	本研究課題は、最先端研究開発支援プログラムの当初計画から大幅に減額・縮小された研究開発の内容となっているところ、本プログラムの趣旨に鑑み、研究課題を加速・強化し、より有意義な成果を得ることが適切と判断し、本年度の加速・強化のための補助金より1.95億円を上限として、中心研究者に対して加速・強化案の提出を依頼することとした。
○	これに対して、以下の内容からなるLSIの低動作電圧化と高性能・高集積化のためのコア技術開発力をさらに高めるとの計画が提出された。
	① CMOS製膜評価フィードバックサイクル短縮のためのラマン分光装置の導入
	② 工程時間短縮のための研究クリーンルームのウェットステーション増強
	③ 新原理CMOS開発の前倒しのための特殊ウェハの調達
	④ 真空一貫プロセス構築のためのCNT製造装置への逆スパッタ機構の導入
○	本プログラムの趣旨に照らして、その内容・費用共に適切であることから、本提案を推進することが適切と判断した。